

ペルーには子ども人口の30%、約200万人以上の働く子どもがいます。ナソップ (MNNATSOP : ペルーの働く子ども・若者の全国運動) は、1996年3月に結成された働く子どもたちの全国ネット。全国で約1万3千人が参加しています。自ら考え行動する能力を持ち、支援される対象ではなく、大人とともに社会に参画する主体であるという考え方が運営にも生かされ、全国代表16名と大人の協力者6名は子どもたちの選挙で選びます。中南米・アフリカ・アジアの運動とも連携して、働く子どもの権利のための活動を展開中。児童労働廃絶への動きに対しては、飢える子、路上に戻る子、法の保護外に置かれる子どもたちの急増を懸念して反対を表明。永山則夫の印税約1千万円は、教育プロジェクトや活動資金、「ナソップの家」の取得などに、そしてチャリティコンサートの収益は奨学基金として活用しています。

コンサート 囚人のうた



演奏

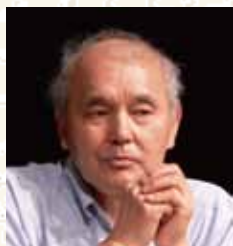
高橋悠治(たがはし・ゆうじ)

作曲家・ピアニスト。1978~85年「水牛楽団」。1990年代から日本の伝統楽器のための作品多数。著書「音の静寂 静寂の音」(平凡社)「きっかけの音楽」「カフカノート」(みすず書房)。

講演 1997→2012 永山則夫さんの処刑から15年目の夏に

講師

太田昌国(おおた・まさくに)



編集者/民族問題・人権問題研究家。長年にわたって編集者として人文書の企画・編集に携わる傍ら、民族問題・南北問題などについての発言を続けている。最近、帝国批判の立場から「日本問題」「米国問題」に関わる発言が多い。著書に『「拉致」異論』(河出文庫)『暴力批判論』(太田出版)『チェ・ゲバラ プレイバック』(現代企画室)などがある。死刑廃止運動にも関わっている。

映画 ペルーの働く子どもたち物語 IV

制作 NPO クシ・punk協会
(Asociacion Cussi Punku)



ペルーには、働くことを通して、家族の生活を共に支えている子どもたちが数多く存在します。私たちは、そんな働く子どもたちの発する声に耳を傾け、子どもたちを取り巻く状況を知り、彼らと議論をし、子どもたちの問題の解決に向けた行動を共に起こしていきたいと考えています。同時に、子どもたちの現状をホームページや映像を通して日本に伝えていく作業も続けていきたいと思っています。(代表:義井豊)

朗読 絵本「パチャママ だいちのめがみ」より



作・絵

井江春代(いゑ・はるよ)

1923年鳥取生まれ。女子美術大学卒。児童出版の仕事に就く。第13回小学館絵画賞受賞。77年よりアンデスをテーマに個展。1986~91年パチャママシリーズ全6冊(フレーベル館)。2011年5月死去。

資料提供 パチャママ基金

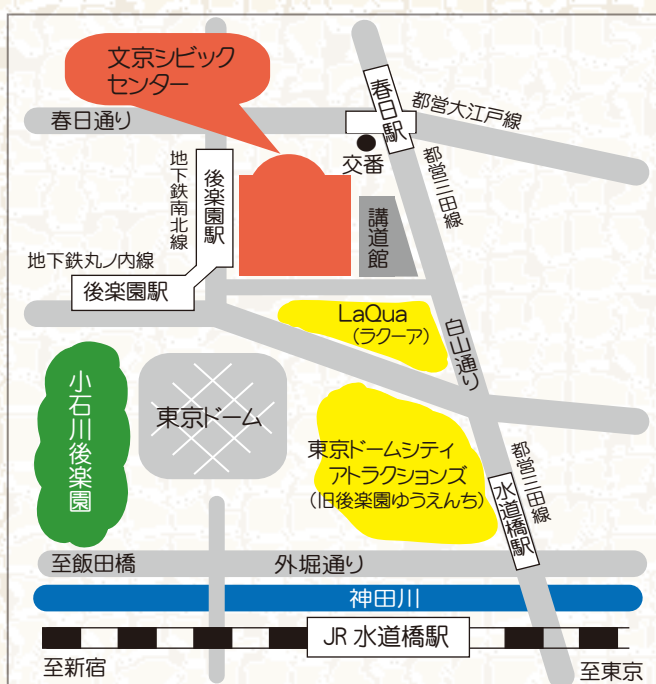
井江春代はアンデスの文化に魅せられ、ペルー、ボリビアを訪ねました。そこで巡り会った“大地の女神パチャママ”が主人公になって6冊の絵本が誕生。アンデスに出会って絵が変わり、folkloreに出会って世界が広がりました。井江春代の後半生を縦横無尽に羽ばたかせてくれたアンデスに感謝! その気持ちが「パチャママ基金」になりました。ペルーの働く子どもたちの奨学金として、毎年、永山子ども基金と一緒に送金します。(代表:井江ミサ子)

朗読

水野慶子(みずの・けいこ)



役者。1982年~93年、テント芝居「風の旅団」に参加。以後、「独火星」などに出演。金時鐘詩の朗読ライブ『ここより遠く よりこのここに近く』(2008年)『四月よ、遠い日よ』(2011年)に朗読で出演。



文京シビックセンター

地下鉄丸の内線・南北線 後楽園駅より徒歩1分
都営三田線・大江戸線 春日駅より徒歩1分
JR総武線 水道橋駅より徒歩9分

(オモテ 画・井江春代「畝」)